

# 解剖学概論

科目責任者 徳田信子  
学年・学期 1学年・3学期

## I. 前 文

本科目「解剖学概論」では、人体を構成する各器官系の基本的な構造とその成り立ちを学ぶ。解剖学は、医学のすべての分野の基盤となる学問であり、診断・治療・研究のいずれにおいても、正確な形態理解なしに成り立つことはない。

人体の構造を理解することは、単に名称や位置を覚えることではなく、「なぜその形をしているのか」「その構造がどのように機能や病態と結びつくのか」を考える力を養うことである。本科目では、人体を尊重する姿勢を基盤とし、医師としての品格と責任を意識しながら、形態を通して生命を理解する態度を身につけることを目標とする。

また、解剖学は国際的に共有される学問であり、専門用語を日本語と英語の双方で正確に理解し、書き表す力は、臨床・研究・国際的な学术交流のすべてにおいて不可欠である。本科目では、解剖学用語を漢字および英語で正確に記述できる基礎力の修得を重視する。

## II. 担当教員

教授 徳田信子 解剖学  
准教授 上田祐司 解剖学  
非常勤講師 大和田祐二 福島国際研究教育機構 (F-REI)・執行役東北大学 細胞生物学・器官解剖学・教授

## III. 一般学習目標

人体を構成する各器官系について、肉眼的構造と主な機能を体系的に理解し、臨床医学・基礎医学・研究活動へと発展していくための、揺るがない医学的思考の基盤を形成する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 各器官系の位置関係、肉眼的構造および主な機能を理解し、構造と機能の関連を踏まえて他者に説明できる。
- 2) 主要な解剖学用語について、漢字表記および英語表記を正確に理解し、記述することができる。
- 3) 解剖学的知識を臨床の事項（症状・診断・治療）と関連づけ、形態から病態を考える基礎的な視点を身につける。
- 4) 人体を尊重する態度と医師としての品格を意識し、専門職としてふさわしい言葉と姿勢で学修に取り組むことができる。
- 5) 自ら疑問を持ち、文献や資料を用いて調べ、解剖学的知識を主体的に深める学修姿勢を身につける。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブラーニング
1	10	5	月	3	イントロダクション・解剖学用語	徳田信子	1
2		19	月	2	循環器系1 (心臓)・免疫系 (胸腺)	徳田信子	1
3		19	月	3	循環器系2 (心臓)	徳田信子	1
4		22	木	2	循環器系3	徳田信子	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
5	10	30	金	4	呼吸器系	徳田信子	1
6	11	2	月	2	消化器系1	徳田信子	1
7		2	月	3	消化器系2	徳田信子	1
8		4	水	5	内分泌系	徳田信子	1
9		12	木	3	泌尿器系・男性の生殖器系1	上田祐司	1
10		25	水	1	泌尿器系・男性の生殖器系2, 脾臓	上田祐司	1
11		26	木	2	女性の生殖器系1	徳田信子	1
12		26	木	3	女性の生殖器系2	徳田信子	1
13	12	3	木	4	献体について	徳田信子	1
14		4	金	4	特別講義	大和田祐二	1
15		4	金	5	特別講義	大和田祐二	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（97%）、レポートなど（3%）により、総合的に評価する。なお、定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅰ」の評価として集計される。

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されているので、書店などで実際に手に取り、自分に合ったものを選択すること。

下記に例示する。

- 1) 教科書：標準解剖学，医学書院
- 2) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 3) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 4) 図譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 5) 図譜：エッセンツァ人体解剖学アトラス，南江堂
- 6) 図譜：グレイ解剖学アトラス，エルゼビア
- 7) 図譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂質問への対応方法

#### VIII. 質問への対応方法

問い合わせ先：解剖学講座（総合教育研究棟8F）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

間違いや誤解が多い点を随時解説する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（目安：20分）

医学書院eテキストやiSmart、推薦されたテキストなどの該当箇所を事前に熟読し、理解できなかった点や疑問点を整理したうえで講義に臨むこと。事前学習では、知識を単に確認するのではなく、自ら疑問を持ち、学修に主体的に向き合う姿勢を大切にすること。

事後学習（目安：15分）

講義内容を復習し、重要事項や概念的な関係を整理するとともに、事前学習で挙げた疑問点について理解を深めること。なお、講義中に示された課題がある場合は、それに取り組むこと。事後学習では、講義内容を受動的に確認するのではなく、自ら問いを立てながら理解を深め、将来医療に携わる者として求められる姿勢を意識して学修に取り組むことを重視する。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。